

## 第77回「ハートミーティング」意見交換の内容について 伝える力 鍛見隊

---

### ★市長からのコメント

○ 市役所の仕事では、民間企業のようにターゲットをしぼって広報を行うことは難しいが、伝えたい人に情報を届けるために、伝えたい人によって広報媒体を選び、伝え方を工夫することは大事なことである。

○ 人に「伝える」ときは「メッセージ性を大切に」、新しい情報や聞いた人が嬉しくなること、心があたたかくなることを伝える。話すときは「簡潔に」、「ユーモア」を取り入れる。これらを意識すると、多くの方が耳を傾けてくれるし、伝えたいことが伝わりやすい。

○ 自分が「伝えた」と思っている、相手が同じように受け取っているか分からない。そこが「伝える」ことの難しいところだ。間違った伝わり方をすると、時には人を傷つけることもある。何を伝えたかよりも、どう伝わったかが重要。そのため、伝える力を養うには、同時に聴く力も養う必要がある。市民の方や職場の同僚の話も他の作業をしながらではなく、相手の目を見て表情が見えるよう向き合って話を聴くことが大切。人間関係が良いとさらに伝わりやすい。

○ 日頃から地域、企業など様々な人とお付き合いしていると、新しい視点で情報収集できたり、役立つ情報を手に入れたりすることができる。そうやって効果的に情報収集したうえで、それらをいかにうまく取捨選択して「伝える」かが重要である。

★参加メンバーからの主な声

○ これまで行ってきた活動を振り返るいい機会になった。メンバーで協力して頑張ってきたという達成感を再度実感するとともに、反省や今後の課題点等、改めて認識することができた。

○ 市役所の広報は、対象が幅広い分、失敗や誤解を恐れてしまいがちだが、「市民に伝える」という目的を見失わないように、今後の広報活動に活かしていきたい。また、「伝える」際には、市役所の情報は堅くてつまらないというイメージを払拭し、市役所はこんなにも楽しい、面白いことをしているんだと、市民の方々の心に伝わるような仕事をしていきたい。

○ 市長も「伝える」ということはとても難しく、正解がなく伝わっているとの思い込みが一番危険と話されていたことが印象に残った。これからも試行錯誤を繰り返して、自分なりの方法を実践していきたい。

○ 「場の雰囲気や自分の思いを盛り込みながら話すことによって、メッセージ性が生まれ、相手の心に伝わる」という市長の話を心に留め、今後の仕事においても市民の方々と接する際に、自分たちの仕事や想いを伝え続けていきたい。